

“丹波望コレクション・ナイト” Vol.47

人生で一度は聴いておきたい名曲選！ ショパン特集

今夜もお集まりいただき、ありがとうございます。

しばし日頃の喧騒・心配を離れ、ゆったりとクラシック音楽にこころを委ねてみましょう。



～お飲み物を用意しています ご自由にお楽しみください～

クラシック音楽の夕べ 丹波望コレクション・ナイト

日 時： 1月26日（月）18時～19時30分

会 場： のしろ交流プラザ Coco Wa（ココワ）

参加無料：皆様からのご寄付を申し受けております

※本サロンでは引き続き感染防止対策のため、手指消毒、ディスタンスの保持、マスクの着用など、ご協力の継続をお願いします。

お問い合わせ先

丹波望コレクション・ナイト事務局 080-6651-9634

第一部（約40分）

1. 幻想即興曲 嬰ハ短調作品 66／ルービンシュタイン（5:16）

完璧主義だったショパンは、1849年に39歳で早世する直前に「未出版の作品は全部破棄してほしい」と遺言していました。生前、ショパンの写譜や清書、出版を長年手伝っていたフォンタナが、ショパンの遺作の整理のために招集され、遺された原稿の中から42曲を選出し、1855年に作品番号66～74が出版されました。なお、《幻想即興曲》の名称もフォンタナの初版に帰するもので、ショパンの自筆譜にはただ《即興曲》とのみ書かれています。

2. ピアノ・ソナタ 第2番変ロ単調作品 35 第3楽章／アルゲリッチ（8:34）

葬送行進曲として知られています。ショパンの中期にあたる1839年に書かれたこのソナタは、創作意欲の大きさを示すばかりか、彼の音楽形式に対する並々ならぬ才能が開花した数少ない傑作です。重苦しい主部と、天国的な美しさを持つ中間部とが、絶妙な対比を成しています。

3. 12の練習曲（エチュード）作品 10 第3番ホ長調／ポリニー（3:41）

弟子のグートマンに「私の一生で、これほど美しい歌を作ったことはない」と語ったと伝えられています。日本では『別れの曲』の愛称で広く知られていますが、ショパンを描いた1930年代のドイツ映画『別れの曲』でこの曲が使われたことに由来するそうです。海外のCDなどでは「Tristesse（悲しみ）」という愛称で呼ばれています。

4. 12の練習曲（エチュード）作品 25 第1番変イ長調／ポリニー（2:11）

「エオリアン・ハーブ（Aeolian Harp）」という通称で知られ、風で弦が鳴る楽器のような繊細な分散和音と、牧童の笛のようにも聞こえるメロディが特徴です。

5. 24の前奏曲（プレリュード）作品 28 第7番イ長調／アルゲリッチ（0:44）

日本では長年にわたり太田胃散のCMに使用されていました。

6. 24の前奏曲（プレリュード）作品28第15番変ニ長調／アルゲリッチ（4:51）

「雨だれ（Raindrop）」という愛称で親しまれており、左手の右手で絶え間なく鳴られる変イ音（A \flat ）が雨粒が滴り落ちる様子を表現し、中間部で嵐のような劇的な展開を見せた後、静かな雨上がりに戻る3部形式の美しい作品です。

7. 夜想曲(ノクターン)第1番変ロ短調作品9-1/レオンスカヤ (6:34)

ノクターン(Nocturne)とは「夜想曲」とも訳され、夜の情景や雰囲気(静けさ、ロマンチックな気分、孤独感など)を表現した叙情的なピアノ曲を指し、アイルランドの作曲家ジョン・フィールドが創始し、ショパンが発展させて有名にした音楽ジャンルです。

ため息のような儂く繊細な旋律が印象的な曲です。最初の18小節で、情緒豊かで起伏に富んだ旋律が右手で歌われますが、ショパンは強弱やニュアンスの指示を事細かに書いています。

8. 夜想曲(ノクターン)第2番変ホ長調作品9-2/レオンスカヤ (5:03)

アンダンテ(Andante ゆるやかに)で書かれた、非常に有名で親しみやすい叙情的なピアノ曲で、オペラのアリアのような美しい旋律が特徴です。

9. 夜想曲(ノクターン)第5番嬰ヘ長調作品15-2/レオンスカヤ (4:05)

歌うような装飾音は旋律ラインと一つになって豊かで深い情緒を醸し出しています。

中間部の五連音の音型はショパンらしい独創性に溢れたもので、若者らしい沸き立つような心情を感じさせます

…休憩…

第二部(約30分)

10. 14のワルツ 第7番嬰ハ短調作品64-2/リパッティ (3:04)

ショパンのワルツは実際の舞踊と離れ、演奏のみが目的であり、シューマンは「もしワルツに合わせて踊るのであればその相手は貴婦人でなければならない」と評しています。

11. 14のワルツ 第9番変イ長調作品69-1/リパッティ (4:22)

悲恋に終わった9歳年下のマリア・ヴォジンスカとのエピソードから、一般に「別れのワルツ」(または「告別 the Farewell Waltz」)の愛称で知られています。

12. アンダンテ・スピアナート:トランキロ/アルゲリッチ (4:55)

ピアノ曲「アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 作品22」の一部で、特に「トランキロ(tranquillo)」という指示が加わり、「静かに、穏やかに、落ち着いて」演奏されることを示すイタリア語の表現です。この部分は、優美で滑らかな旋律が特徴で、まるで静かな湖面を滑るように演奏されます。

13. マズルカ 第5番変ロ長調作品7-1/ルービンシュタイン (2:37)

マズルカはポロネーズとならんで、ショパンが終生愛し続けたポーランドの民族舞曲です。ワルツとは異なる1拍目以外のアクセント(3拍子舞曲)が重要で、演奏会でも頻繁に取り上げられる作品です。

14. マズルカ 第23番ニ長調作品33-2/ルービンシュタイン (2:37)

明るく華やかな曲想が特徴の作品です。バレエ《レ・シルフィード》にも使われ、民族色と洗練された美しさを併せ持つ、ショパンの「日常」に触れる一曲として親しまれています。

15. ポロネーズ 第3番イ長調作品40-1《軍隊》/ポリニー (5:21)

ポロネーズとは、フランス語で「ポーランド風」を意味する、ポーランド発祥の3拍子の舞曲で、もともとは貴族の行進曲として発展し、「ポーランドの誇り」を表現する力強い音楽です。ゆっくりとしたテンポで一拍目が強調される特徴的なリズムを持ち、ワルツとは異なり、激しい回転のない優雅な行進形式で踊られます。

16. ポロネーズ 第6番変イ長調作品53《英雄》/ポリニー (7:02)

全体的に半音階的な上昇進行、動機の短縮、低音オクターヴによる音量効果がちりばめられておりピアノに管弦楽的な表現を遺憾なく発揮させています。なお、『英雄ポロネーズ』と名付けたのはショパン自身ではなく、一説にはショパンと関わりが深い弟子たち、あるいはこの曲を聞いて感心した人たちが付けたといわれています。